



小浜市・若狭町【福井県】 歴史文化基本構想

- 策定年月：平成23年3月 ■ 人口：29,672人 ■ 面積：233km²
- 担当課：小浜市委員会文化課（平成30年3月現在） ※以上小浜市情報



若狭湾に抱かれた小浜市は、海山里が一体となった自然豊かな地で、都の天皇・貴族家に食材を供給する「御食国」の歴史をもち、海と都をつなぐ文化交流の拠点であった。この輝かしい歴史を未来へつなぐため、「御食国若狭の成立と発展」「新たな『御食国若狭』の創造へ」をテーマに、「食文化と民俗行事」を基軸として歴史文化の保存継承と活用を進める。

5 歴史文化を表す つのキーワード

人と自然との共生、御食国若狭、
神仏習合の社寺、鯖街道、小浜城下町

課題

- ・歴史文化保存活用区域と関連文化財群区域の不一致
- ・歴史まちづくり法の適用困難な関連文化財群の存在
- ・文化財の保存と活用にかかる所管が行政内で分離

保存活用方針

- ・地域資源の掘り起こしと未指定文化財の詳細調査
- ・文化財リストの整備と文化財の定期的な状況把握
- ・文化財災害危険マップの作成
- ・歴史文化基本構想の普及啓発と文化財活用

保存活用のための取り組み

保存修理事業計画・防災施設事業計画

地域生活に根ざした「食文化と伝統行事」の調査・指定を住民・専門家と協働で推進している。地域の核となる文化財である重伝建地区「小浜組」では保存管理・防災事業を推進。



ストーリーにあわせた活用事業と施設整備

「まちの駅」（小浜市芝居小屋「旭座」）など、文化財周遊・住民啓発の拠点となる文化財を整備し、あわせて文化財めぐりの看板を整備。民俗文化財公開と旭座幕の内弁当による食との一体発信と活用を推進。



「食と民俗行事」を基軸とした普及啓発事業

住民団体と有機的に連携しながら、「食」に注目し、四季を意識した事業を旭座や御食国若狭おばま食文化館で展開している。また食に関わる伝統産業の復興も実施・支援している。



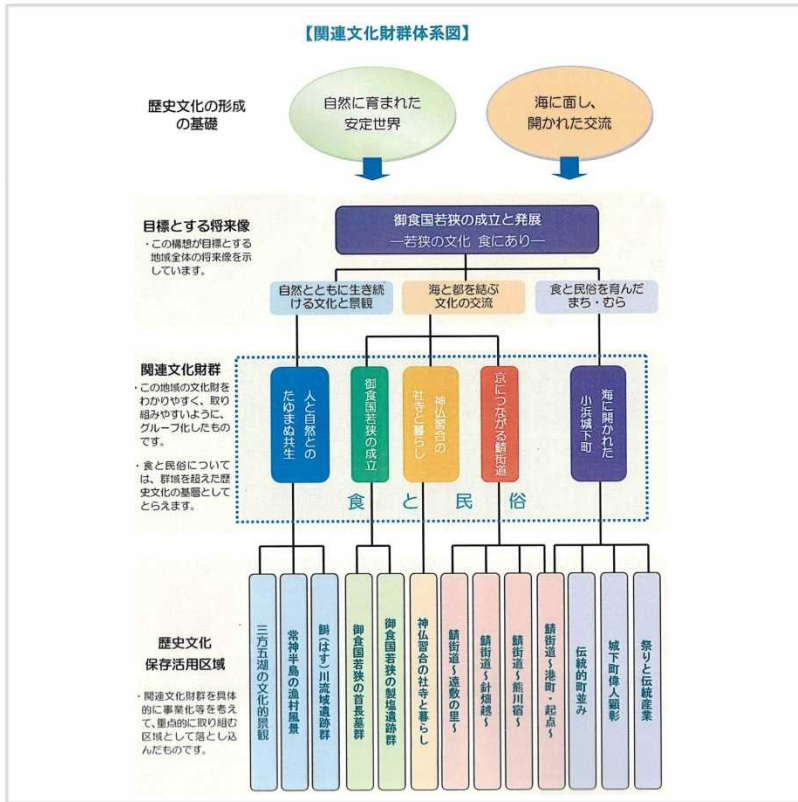
次世代を担う人材の育成

テキストによる子ども語り部の育成を推進しており、御食国若狭おばま食文化館ではキッズキッチンで食文化の伝承に取り組む。各小学校では鯖街道を踏破する鯖街道体験ウォーキングを実施。





関連文化財群



当市は、地方都市としては稀な、多様な多層な地域資源を持つ。その根底の「自然に育まれた安定世界」と「海に面し開かれた交流」の二つの要素が欠けることなく現在に引き継がれている。それぞれの関連文化財群は、この二要素をわかりやすく示す豊かな「食と民俗」により、住民に近い、親しみやすい文化財群として位置づけることによって、保存活用を推進していく計画としている

ストーリー

- ① 人と自然とのたゆまぬ共生
- ② 御食国若狭の成立 ～首長墓群～
- ③ 御食国若狭の成立 ～製塩遺跡群～
- ④ 神仏習合の社寺と暮らし
- ⑤ 鯖街道 ～遠敷の里～
- ⑥ 鯖街道 ～針畑越～
- ⑦ 鯖街道 ～熊川宿～
- ⑧ 海に開かれた小浜城下町～町並み～
- ⑨ 海に開かれた小浜城下町～偉人～
- ⑩ 海に開かれた小浜城下町～祭り～



策定後の成果（見込まれる効果）

① 日本遺産等によるさらなる活用
地域の特質を地域全体で把握し、活用を模索していく中で、日本遺産「海と都をつなぐ若狭の往来文化遺産群～御食国若狭と鯖街道～」認定の契機となった。また、民俗文化財・食の調査による保存継承を進める中で、食文化の活用や提供・民俗行事の積極的な公開など、地域文化に誇りを持ち、活用につながる道筋となる。



② 産業界への波及
「保存から活用へ」という大きな流れの中、その理念を住民との協働作業により実施することによって「保存」の大切さと「活用」の必要性を共有できる。鯖街道の「鯖」に着目した歴史ブランドを市民と共有して鯖養殖、鯖商品の開発、鯖街道トレッキングなどを実施している。



③ 研究フィールドから活用へ
計画策定以後も、自然・人文系を問わず、大学等の研究フィールドとして注目され、基本構想のノウハウを活かした住民との協働研究が進められている。一方、行政は、専門家との協働により文化財保存の専門意識を蓄積。また、研究成果と食の体験を融合させた「御食国アカデミー」を体験・スタディツアーとして商品化する事業が開始されている。

